

古城小だより

旭市立古城小学校
令和1年11月20日
NO. 16



豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子の育成

季節の変化を感じる今日この頃

立冬も過ぎ、季節は確実に冬に向かっていきます。朝の登校の様子では、手袋やマフラーを使用するお子さんも見られるようになりました。しかし、日中はというと、半袖半ズボンで元気にマラソン練習に取り組み、休み時間は歓声を上げてグラウンドを走り回る元気な古城っ子の姿が見られます。

今月は、古城っ子が大いに「表現する」月でした。特に市音楽会・古城っ子フェスタでは、自分の気持ちや学び、学習の一端を発表しました。今年、大変来校者が多く、普段は学校に来ることが少ないお父さん・お祖父さん・お祖母さんの参加も見られ、うれしい限りです。家族が、地域の皆さんが古城っ子の活動を応援し、成長を温かく見守ってくれていることを実感しました。この号は音楽会と古城っ子フェスタの様子を中心にまとめました。

さすが古城っ子。様々な発表が輝きます。



東総文化会館のステージに立った子ども達。9月から4・5・6年生で練習を重ね、「ビリーブ」「未来への讃歌」の2曲を披露しました。指揮者は、多田先生が務めました。普段は体育主任として活躍する先生ですが、実は音楽も堪能な先生です。ピアノ伴奏は、向後愛美先生、そして、6年生の林 奏汰君が勤めました。合唱発表校で子どもが伴奏したのは、奏汰君一人でした。左は奏汰君の感想です。

本番は、とても緊張しました。演奏が終わった瞬間にこれまでの苦勞がすべて消えて、ほっとした気持ちになりました。そして、ピアノ伴奏をやり遂げた達成感を感じました。



社会科学習の発表 3年生



宿泊学習の振り返り 5年生



読み聞かせは発表のお手本



遊びフェスタ 出店①



かわいい1年生



社会の問題を考える6年生



遊びフェスタ 出店②



遊びフェスタ 出店③

古城っ子フェスタは、「発表フェスタ」「学年パビリオン」「遊びフェスタ」の三部構成で行われました。全校の皆で準備をし、この日の発表は「すべての児童が主役」の一日でした。

家族に学校の様子を見ていただけることは、児童にとって大変励みになることです。緊張した空気の中で発表をやり遂げた満足感は日本人に足りないと言われる「自己肯定感」を育てることにもつながります。学年が上がり、親に見られたくないといった態度を見せることもあります。これも誰もが通る「成長の過程」です。身近な人ほど照れくさいものです。子ども同士の関わりや上級生・下級生との関わりの中では、しっかりと発表し、成長しています。また、自分が楽しむこと以上に、人に喜んでもらうこと「人に与える喜び」もあります。遊びフェスタでの高学年の対応は正にそれでした。自分の担当する出店に人を招き、知らない人に説明し、小さい子には手を差し伸べていました。古城っ子フェスタは、古城小ならではの素晴らしい行事です。

「スーパー読書賞」 4年 石川 麗央さん 4年山田 桃士さん 5年 大和田 祐衣さん
ちばみーかつミニバス大会・ノースかつミニバス大会 女子の部 ダブル 優勝
共和MBC 6年 荒井 優菜さん 石塚 子々さん
ノースかつミニバスケットボール大会 男子の部 3位
ユナイツ 6年 金杉 涼太郎君(優秀選手賞受賞) 林 奏汰君 実川 陽向君 林 航太君
5年 大久保 愛生君 4年 川内 和希君 2年 大久保 颯月君 荒井 康介君